



宇佐美圭司「路上の英雄 No.3」



撮影：Jan Gates

教養

を楽しむ
ために

「教養」とは何だろう？『広辞苑』には

1. 教養育ること。
2. 単なる学殖・多識とは異なり、一定の文化理想を体得し、それによって個人が身につけた創造的な理解力や知識。その内容は時代や民族の文化理念の変遷に応じて異なる。

と記載されている。

これによると、「教養」は、特定の知識を得ることではなく、人が生きること、そしてその中で文明・文化を築いていくためのダイナミックな知的営為として捉えられている。今回の特集では、慶應義塾大学で展開されている多彩な「教養」教育の実践を紹介していきたい。



イサム・ノグチ「無」



なぜ「教養」は大切なのか？

教養研究センター所長／理工学部 教授

小菅隼人
こすげはやと

慶應義塾と教養教育

「教養」とは単にさまざまな知識を得ることではなく、あらゆる学問の土台であり、目標でもあると私は考えています。しばしば大学における教養教育は専門教育とまったく別物として語られがちですが、それは間違いです。慶應義塾では、教養なくして専門性は高めることができないという考えのもと、双方を関連づけて学ぶことができ、カリキュラム改革を進めてきました。

そもそも慶應義塾は「教養」を大切に考えてきた学舎です。学ぶ姿勢を奨励する『学問のすゝめ』は、福澤諭吉による「教養のすすめ」と私は捉えています。また、学生と教師を分断しない慶應義塾の「社中」や「半学半教」の考え方には、現代に通じる教養教育のあるべき姿が映し出されているように思えます。

現在、教養研究センターでは、実践的な論文作成やプレゼン技法を学ぶ「アカデミック・スキルズ」、慶應義塾

ならではの「日吉学」、学部教育ではカバーできない「身体知」、学際的な「生命の教養学」、演奏実践を通じて学ぶ「身体知・音楽ⅠⅡ」など、教養教育を幅広い視点から捉えた科目を展開しています。また山形県鶴岡市で3泊4日の日程で行われる「庄内セミナー」は、慶應義塾大学先端生命科学研究所やミニ山伏体験、地域住民との交流などを通して、多角的に「生命」について学ぶ画期的なプロジェクトです。

私たちはこうした科目を通して、塾生の皆さんにあらためて慶應義塾で触れる「教養」というものの意味と価値について考えていただきたいと思っています。



教養の3つの側面

私は教養というものには3つの側面があると考えています。

まず「つながる力」。例えば、言語を学ぶことで人は世界とつながることが出来ます。あるいは文学を通して時間をさかのぼって過去に生きた人々と対話することもできるでしょう。さらに芸術によってこれまで見えなかった、知らなかった新しい価値観・世界観とつながることが出来るかもしれません。

2番目は「身体性」です。多くの皆さんが学問とは「調べて覚えること」と思われているかもしれませんが、しかし、それでは教養にはなり得ません。「調べて身につけること」ができてこそ、教養です。自分の身になるわけですから、必要があればいつでも取り出して、自在に活用することが出来る……本物の教養とはそういうものではないでしょうか？

そして「多様性」という側面にも注目しておきたいと思えます。コミュニティ、国、言語、あるいは世代を超えた普遍的な真理、例えば生命の価値や人権などに関するユニバーサルな教養というものがあります。その一方で特定のコミュニティ、国、言語、あるいは

は世代で共有されるローカルな教養もあります。そのいずれもが教養であり、こうした世界の多様性を認識することも教養教育の重要な役割です。

教養を鍛える読書習慣

さて、教養を高めるために最も有効な手段はなんだと思いますか？

私は読書習慣だと考えています。それもただ単に読むだけでは教養は身につきません。自分が読み取ったことをベースに他者と語り合い、議論を戦わせるのです。そうすることによって異なる考えの他者と「つながり」、知識はより強固に「身体性」を獲得し、他者の思考や価値観を受け入れられるよう「多様性」を広げる体験となるわけです。

若い人にはできるだけ多くの書物を読み、誰かと語り合ってほしいと思います。特に、自分には歯が立たないと感じるような、すぐには理解できない難しいものに挑戦してみてください。

教養研究センターでは「晴読雨読」と題した学生と教員が対等に語り合える読書会を日吉キャンパスで開催し、ハンナ・アレントや丸山眞男といった歯ごたえのある著作を取り上げています。塾生ならどなたでも参加できますので、ぜひ一度のぞいてみてください。

生命の教養学

「生命の教養学」について



商学部 准教授
にしおたかひろ
西尾宇広

2019年度は「生命の経済」をテーマに
計11回のオムニバス講義を実施

「生命」というテーマは、人文科学、
社会科学、自然科学が交錯する領域で
す。「生命」を中心に据えた多彩な知の
カタチに触れることで、学際的に考え
るための材料やヒントを多く提供する
ことができますと考えています。

ただし「生命」だけではあまりにも
広大な領域に及びますので、年度ごと
に生命に準じるサブテーマを掲げるこ
とにしています。

今年度は「生命の経済」というテー
マを設定しました。学内外から各分野
の第一線で活躍されている講師陣をお

生命の教養学

2019年度サブタイトル：生命の経済

テーマ	講師
アリストテレスの政治学における 生命と経済と互惠性	稲村一隆 (早稲田大学政治経済学部准教授)
技術と社会経済システム	駒村康平 (経済学部教授)
「死亡リスク」と「長生きリスク」 ～ファイナンスという観点から～	中川秀敏 (一橋大学大学院経営管理研究科教授)
心のダイナミズム	森さち子 (総合政策学部教授)
行動経済学とビッグデータから 探るヒトの意思決定と行動	星野崇宏 (経済学部教授)
黎明期資本主義における市場・ 福祉・公共善	山本浩司 (東京大学経済学部准教授)
屠畜と肉食のエコノミー、 その人類学的考察	宮本万里 (商学部准教授)
環境基準とは何か	奥田知明 (理工学部准教授)
細胞におけるタンパク質の 翻訳後修飾の意味	清水史郎 (理工学部教授)
「生命の経済」という視点からみた 人間の特異性	田中泉吏 (文学部准教授)
成長とその運命：生命体と社会の 「全般経済」	石川学 (商学部専任講師)

授業で集めた素材を使って 分野横断的な思考の地図を描く

招きして、4月から7月の約3カ月間
で全11回のオムニバス形式の講義を実
施中です。哲学、心理学、化学など、
なかなか「経済」との関連が見えにく
い分野の講義でどのように生命と経済
が結びつくのか、私自身いつも楽しみ
にしながら授業のコーディネート役を
務めています。

全11回すべてのテーマに、最初から
積極的な関心を持つことができる塾生
は少ないかもしれません。しかしそれ
でかまわないのです。自分が見たい世
界だけに閉じこもるのではなく、それ

2003年度に極東証券寄附講座としてスタートした「生命の
教養学」。「生きる」という人間にとって根本的なテーマをあらた
めて捉え直し、塾生たちに文系・理系を問わない分野横断的な
ものの見方や考え方を身につけてもらうための「教養」講座です。

それぞれの専門分野からは見えにくい世界、あるいは今まで関心を持ったことがなかった領域へ、授業というカタチで塾生たちを「強制的」に連れて行くことで、それまで気づけなかった世界に目を向けてもらうことができるのではないかと。「生命の教養学」という授業にはそういう思いも込められています。

この講義を終えた後、塾生は自分が特定の学問分野にとらわれることなく「生命」を考えるためのさまざまな素材を手に行っていることに気づくでしょう。そうした素材を使って、今度はそれぞれの頭の中で分野横断的な思考の地図を描けるようになってほしい。それが学際的に学ぶということであり、広い意味で「教養」を身につけることだと思いません。そして、学部・学科での専門分野に戻ったときに、「教養」を志向する態度が自発的・独創的なアイデアや知見を生むベールになってくれることを期待しています。



◎講義ダイジェスト 5月17日 「心のダイナミズム」



〈講師〉
総合政策学部
教授
森さち子
（臨床心理学）

●前半 はじめに「無意識へ」

森教授は精神分析的心理療法士としての経験をもとに、発達プロセスに沿って、さまざまな心のテーマがあることを語りました。続いて心の深層を探索したフロイトとユングが紹介されました。

自身の個人的な悩みや経験を基軸に、彼らが心をめぐる理論を展開させたという説明に、塾生はとりわけ関心を持って耳を傾けていました。さらに、本人には自覚されにくい「無意識」があること、そうした「心の闇」に光をあてることの臨床的意義を取り上げまし

た。気づかないでいる無意識的な「何か」によって、実はその人の現実的な行動が支配されているという捉え方があります。例えば、本人がやめたくてもやめられずに繰り返してしまう過食や万引きなどの行為の奥に、どのような感情が潜んでいるのか。そしてそれが本人に実感されない限り、反復されるという現象が解説されました。何気なくしている行為の奥にも、どんな無意識があるのか。いつのまにか塾生は、自己探索に誘われていました。

●後半 経済論（エネルギー論）の見地

後半は「生命の教養学—生命の経済」のテーマに直接つながる「精神分析における経済論的観点」についてです。人には、生得的な本性や気質と結びついた「心の中の現実」があります。自己保存本能、性的・攻撃的欲動などと死をめぐる情動がそこに含まれます。一方で心は外的な現実を捉え、適応する働きもしています。現実を把握して、それによつてどのように対処するかを判断する「現実検討機能」、また自分の内面と、外界で起きていることを常に分



けることができる「心の境界を保つ機能」——この二つが、心の重要な「現実機能」です。

人はこの「心の中の現実」と「心の外の現実」のバランスを取りながら、社会に適応して生きています。そしてこの調整の仕方、すなわち「心のダイナミズム」こそが、経済論（エネルギー論）につながるポイントです。それは、情動（愛情や攻撃性）の量・強さ・質・方向性をエネルギーとみなして、「心的エネルギーの動き」を捉えようとする考え方は、ある特定の領域に、大量のエネルギーが集中してしまうと「全体にエネルギーがゆき渡らずバランスが崩れやすい、配分がうまくなされない、生産的にうまく利用されにくい」。例えば、恋愛に夢中になると現実のことが希薄になってしまふ、あるいは不安が強すぎると失敗しやすい。そのように現実検討を失わないように、心にはバランスを取りながら内的な安定を保とうとする「防衛機制」というメカニズムがあります。森教授によると、その代表的なものに「抑圧」「否認」「強迫」「知性化」などの7種類があり、その働き方がその人らしさ（パーソナリティ）を特徴づけているそうです。

最後に森教授は、自らの心のダイナミズムをより深く知ることによって、

「生命」を介して見えてくるもの

心のキャパシティ（感情の容れもの）が広がり、豊かな自分になることができると語りかけ、講義を終えました。質疑応答の時間には、講義内容や臨床心理士の仕事について多くの質問が寄せられました。

●講義を終えて一言

「今回の講座では、臨床心理学に関心を抱きつつ日吉で学んでいた時代、かつての私自身が知りたいと思っていた心の世界についてお話ししました。心理学と経済学は遠くかけ離れているようにも思いますが、実は学問、教養といったものには普遍的な共通基盤があるように思えます。今回の講義をお引き受けして、そのことに改めて気づかされました。質疑応答の時間には、塾生たちが自分の体験に引き寄せて積極的に講義内容を受けとめてくれていたことが伝わり、感銘を受けました」（森教授）

視野が広がり、目指す方向が明確に



理工学部管理工学科2年
金子佳弘君

大学に入学してから、さまざまな学問分野の話を知りたいという気持ちが強くなっていったので、オムニバス形式で専門家の講義を聴ける「生命の教養学」を受講しています。私は特に経済学と心理学への関心が高いのですが、それほど関心がなかった分野の講義からも学ぶことが少なくありません。各講義を通して少しずつ視野を広げること、今後自分が目指していきたい方向も明確になってきたような気がします。

「生命」を介して見えてくるもの



商学部2年
杉原かのん君

「生命の教養学」は、これまで自分からなかった分野の講義を通して、新しい視座を獲得し、知的な経験値が上がる授業だと思えます。毎回、異なる分野の専門家が登壇し、一つひとつの講義はつながりがないように思えるのですが、「生命」という大きなテーマを意識すると、次第に根本のつながりが見えてきます。残りの授業で生命をめぐるどのようなアプローチに触れられるか、とても楽しみにしています。

時空を超えてより広い世界を知るための「特殊講座」



言語文化研究所
教授・副所長
野元晋のもと しん

1942年設立の「語学研究所」を前身とする「言語文化研究所」は、長年にわたり欧米に偏重ではないアジア・中東地域を中心とした多様な言語を扱う研究所として活動してきました。

研究所設立当初は、主に地域の文化、歴史、思想関係の研究やそれらの分野の専門家を視野に諸言語を教授する役割を担ってきましたが、その伝統がグローバル化・価値観の多様化する現代において、あらためて大きな価値を持ちつつあります。

すべての学部生・院生を対象に開講している「特殊講座」は、そうした当研究所の言語教育の伝統をベースに、学部教育がカバーできない多くの言語を含む、13言語を学ぶチャンスを提供する講座です。どの講座も通年で開講しており、まったくの初心者を対象に

した初級講座を充実させています。

言語はコミュニケーションの道具でもあります。一方で地域の文化を知る窓、入口としての役割もあります。例えば私が担当するアラビア語では、現地で伝統的に大切に扱われてきたラクダを示す言葉がたくさんあります。言語学習を通してその地域に生きる人々の生活観や息づかいを感じてもらえば、これまで見ていた世界よりさらに広い世界が見えるようになるに違いありません。

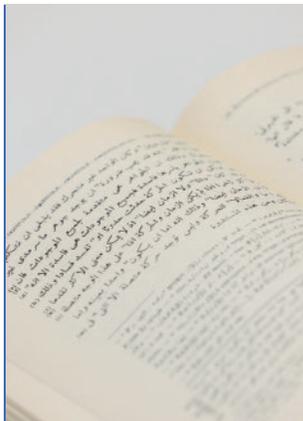
また特殊講座では古代エジプト語や古代メソポタミアで使われていたアッカド語を学ぶ講座も開講しています。地域的な広がりだけでなく、言語を通して時間軸の広がり、すなわち過去

の人々と対話するという得難い体験をすることができのです。

もともと特殊講座には東洋史などを専攻する文学部生が多く受講していました。ところが近年はより幅広い分野からの受講者が増えています。海外旅行や留学、また留学生の友人を通してさまざまな言語が身近になっていくからかもしれません。アルファベットとは異なる文字のカタチに惹かれて、アラビア語やサンスクリットを学ぶ塾生など、動機はさまざまですが、言語を通して、それぞれが自分の世界を広げる楽しさを味わってくれることが、私たち教員の願いです。特殊講座を通して、ぜひ新しい世界への入口を発見してください。

特殊講座で扱っている言語

- サンスクリット
- アラビア語
- ヴェトナム語
- ペルシア語
- タイ語
- トルコ語
- カンボジア語
- 朝鮮語
- ヘブル語
- 古代エジプト語
- アッカド語
- 日本手話
- ビルマ（ミャンマー）語



「推理小説・推理小説論を読む」

推理小説というジャンルは、一体どのように成立してきたのか？ 実作品（短編）のほか、推理小説論も考察の対象として発表・レポート作成の練習を行います。推理小説というジャンルについて自分なりの新たな認識を得られる面白さにつられて、いつのまにか発表やレポート作成に習熟してしまうことが狙いです。

担当教員：理工学部教授 高桑和巳

きわめて真面目な初年次教育ですが、ネタはなんでもいい。アニメや警察小説をテーマにしている同僚もいます。私はこの15年というもの、ずっと推理小説でやっています。タスク（発表とレポート）の量に悲鳴をあげる受講者もいますが、扱う対象が面白いので、ほとんどの人は最後までついてきてくれます。

「アリストテレスの『ニコマコス倫理学』を読む」

古代ギリシャの哲学者アリストテレスの講義録を息子のニコマコスがまとめたものと伝えられる『ニコマコス倫理学』。この古典的な倫理学の研究書を丁寧に読み解きながら学生に「幸福」について考えてもらいます。同時にテキストで展開される抽象的な議論を論理的にまとめ、それぞれが疑問や意見を述べる力を養います。

担当教員：商学部教授 成田和信

二千年を越える解釈の歴史がある『ニコマコス倫理学』だけど、そんなものは脇において、一人ひとりが（邦訳の）テキストそのものに向き合って、とことん細かい所までこだわって、自分の頭で自分なりの解釈を試みて、それをお互いにぶつけ合いながら、アリストテレスが言いたかったことを探っています。

ユニークな少人数セミナー

学部設置されている「総合教育セミナー」には、ユニークな授業が盛りだくさん。日吉キャンパスで行っている4つのセミナーを紹介します。

「あまり計算をしない数学 (I)」

数学は、論理的思考力を養うために最適な学問。しかし、計算が苦手な数学嫌いになってしまった人も多いかと思います。授業では数学的な文章を読み、問題を解き、その発表をしてもらいます。自分の理解したことを他人にわかりやすく説明し、なぜそうなるかという問いに論理的に回答できるようにすることが授業の目的です。

担当教員：商学部教授 藤沢 潤

美術館問題やタイリング等の、離散数学の話題を扱うテキストを輪読しています。発表に不明瞭な点があると私は即座に「なぜそうなるの？」と質問するのですが、初めのうちはそれに戸惑っていた学生が、回を追うごとに発表の要所を注意深く説明できるようになると「おっ、成長したな」という実感が得られます。

「骨に聞く、骨を読む：基礎編」

人体を構成する骨や歯の形について、実物標本の観察やスケッチを通して学ぶ、実習型の授業です。体幹、上下肢、手足、頭、歯など、部位ごとに観察を進め、それぞれの構造の機能や動きを理解していきます。秋学期の応用編と合わせて、自然人類学の基礎となる人骨資料に習熟することを目指します。

担当教員：文学部准教授 河野礼子

実物標本を使用する都合上、受講可能人数に制限があり、希望者全員は受け入れられない場合もありますが、人骨資料に関心のある学生にはぜひ、このセミナーで本物の骨に触れることで、骨の形の美しさ、また人体がとてもうまくできていることを知ってもらいたいと思います。

SFCスピリッツの創造



湘南藤沢キャンパス(SFC)は2020年に開設30年を迎えます。すでに数万人の卒業生が、国内外で活躍中です。今年度春学期に開講した「SFCスピリッツの創造」では、社会でもSFCスピリッツをもち続けている14人の卒業生を招集。

新入生と大きな場を共有し、ともに学びながら、生涯SFCスピリッツをもち続ける姿勢を生み出すための授業です。

SFCのカリキュラムは既存の学問の枠にとらわれず、学年による区別もありません。また、研究活動の中心である「研究会」は能力次第で1年次からでも参加可能です。そうしたSFCの自由な環境をフルに活用して学ぶため、新1年生にとっての「SFC生活入門」となる科目です(2年生以上も履修可能)。



撮影: Jan Gates

〈開催予定コンサート〉

■慶應義塾大学コレギウム・ムジクム・古楽アカデミー室内アンサンブル演奏会

～ジョハンニ・レグレンツィの音楽～

日時:7月6日(土) 14:00開演(13:30開場)

■慶應義塾大学コレギウム・ムジクム・オペラプロジェクト2019プロモーション演奏会

～ミニオペラ、ドメニコ・チマローザ作曲《宮廷楽長》～

日時:7月13日(土) 17:00開演(16:30開場)

■室内楽・ピアノ・マラソンコンサート

日時:10月5日(土) 14:00開演(13:30開場)

■慶應義塾大学コレギウム・ムジクム・オペラプロジェクト2019

日時:12月1日(日)・8日(日)・14日(土)

15:00開演(14:00開場)

場所:いずれも藤原洋記念ホール

(慶應義塾大学日吉キャンパス協生館内)

慶應義塾大学 日吉音楽学研究室

<http://www.musicology.hc.keio.ac.jp/>

日吉音楽学研究室開催コンサート

日吉音楽学研究室では、教養研究センター、日吉行事企画委員会(HAPP)や横浜市(クラシック・ヨコハマ)などと協力しながら、さまざまなコンサートを企画・開催し、塾生、塾員、教職員のほか、地域の人々にも音楽に触れる機会を提供しています。

コンサート会場は、主に日吉キャンパス協生館内の藤原洋記念ホール。「音楽」の授業の一環として始まった「慶應義塾大学コレギウム・ムジクム」の演奏会や、義塾が所有するチェンバロ等の楽器を用いたコンサートを開催しています。コレギウム・ムジクムの声楽アンサンブルは、2019年3月にカナダ・バンクーバーに遠征し、プリティッシュ・コロンビア大学のオーケストラや地元の演奏家たちと合同でバロック音楽の演奏会を開催しました。



バンクーバー・クライストチャーチ大聖堂で行われた演奏会 撮影: Jan Gates

博物館や美術館にも足を運んでみよう

大学パートナーシップ、キャンパスメンバーズ



東京国立近代美術館



国立国際美術館

- 国立美術館キャンパスメンバーズ（全国6カ所が対象）
<http://www.campusmembers.jp>
- 国立科学博物館大学パートナーシップ（全国3カ所が対象）
<http://www.kahaku.go.jp/procedure/partnership/index.html>
- 東京国立博物館キャンパスメンバーズ
https://www.tnm.jp/modules/r_free_page/index.php?id=167

慶應義塾大学では国立美術館「キャンパスメンバーズ」、国立科学博物館「大学パートナーシップ」、東京国立博物館「キャンパスメンバーズ」に加入しています。これらは大学・短期大学・高等専門学校等を対象とした会員制度で、学生が博物館や美術館を有効に活用し、より豊かな教養と感性を身につけることを目的としています。塾生はこれらの美術館・博物館の窓口で学生証を提示するだけで、常設展の入館料が無料となり、特別展は割引料金となります。ぜひ、積極的に活用してください。

世界共通の学生身分証明書で海外でも学割サービス

国際学生証 ISIC カード



慶應義塾生協 三田プレイガイドセンター

- 国際学生証 ISIC
<https://www.univcoop.or.jp/uct/>

多くの塾生は学生証を使って、日頃から学割サービスを利用していると思いますが、海外でも学割を利用できることをご存じですか？ ISICカード（International Student Identity Card）は、ユネスコに承認された世界共通の学生身分証明書。世界133カ国で毎年500万人以上の学生が利用しています。このカードは留学・海外研修中や海外旅行中に身分証明書として役立つだけでなく、国内の学割と同様に観光や宿泊施設などでも割引特典を受けることができます。発行申し込みは大学生協で受け付けています。



構内の文化財やアートに触れるキャンパスツアー

三田キャンパスでは、秋に構内の貴重な建築物とアート作品に触れる「建築プロムナード―建築特別公開日」と「ガイドツアー」を開催しています。

慶應義塾大学三田キャンパス 建築プロムナード



通常は非公開となっている三田演説館や南館3階の旧ノグチ・ルームの内部が2日間に限って特別公開されます。

慶應義塾大学のキャンパスでも歴史がある三田キャンパス。慶應義塾大学アート・センター主催（港区と共催）の「建築プロムナード―建築特別公開日」は、多くの方に重要文化財を含む三田キャンパスの貴重な建築物やアート作品に触れてもらう機会となっています。

見学するだけなら申し込みは不要で、参加無料。三田キャンパスに設置された配布場所で開催された彫刻や建築の位置が記されたマップを入手し、キャンパス内を散策しながら、三田演説館や南館3階の旧ノグチ・ルームなど、公開対象となっている建物を自由に見学することができます。

昨年は10月に2回開催しました。両日ともにアート・センター学芸員の解説を聞きながら三田キャンパスを巡る「ガイドツアー（定員20名・約60分・事前申し込み）」も同時開催し、外国人留学生や一般の方々も多数参加しました。「建築プロムナード」と「ガイドツアー」は今秋も10月に開催予定です。